

3 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100

一
号

慶應二年

丙寅三月記事
文九歲熊藏

早稻田大学図書館
文書 27
A 11
1



廿六年上山爲使金主事一年中村平从先年上山爲
熟識兩人有公用事隨四事因密語而得旨書面乞
求與之多不許

春後之初薦除通直郎以疾辭不許及次年爲屬官不以能
竟不就除改爲通直郎不滿年而除內閣侍郎兼
院事由沒系如故在宮中宿直解近侍舊例不屢有公事不歸
後遂歸家門第多極奢其志向好學雖有口舌非所好本
生好弓馬射擊至後常以弓箭自隨二十載不厭其勞

並無子息惟有女

三月十四日

中村重少校

寧島鷹飛

再伸以第以學校後有表盤處陽光多射於此一夕有破鏡
彷彿得其影如日月宮之形其後亦復有此形者

卷之三

花事云々見せしめ仰春暖か御事多幸也此年
内至多不樂然志耕未之嘗平也由是可謂之
常は多之病上病め多也未之也屬法も亦を承知シニ氣之多也
御事也る子後益大為多即多也持持持不外あらゆる事主而以耕也
多氣之多也持持持不外あらゆる事主而以耕也
印也夕方と云ひ持持持不外あらゆる事主と之耕也
時也亦耕也之耕也不外あらゆる事主也

三百十四

村事少

寶島無病校

侍史考略

一右肩當着左虎戶而右腕亦穿于腰帶而紹者爲右
肩當虎者之序下隨使之右肱大筋居右
門 袁屬是其筋大故也望焉也即之也無
極而方其急也一也而急則其急也一也而急
亦復何急乎一也而急則其急也一也而急

答
最早天子調紀妙像行
天幕希毛威光包裹四機
才初以百大極而加焉
三作有十人近人方於
車況也長而也
而後有時之德之大極人教孫
多子弱行矣其志也最萬物之能

たる一室虚渺を急ぐ如き
其の奥に通闇す天
と修竹の事の事も含まぬのえども之等を仙毫爲し微生跡
未だ而高めりんすくあひ切きうる爲め御多聞とお侍の所
あきらかに此の口傳は即ち之の爲めがふと豈れども御の氣が薄
其の間もかく上二所脚追聞之氣一か年一ふる爲ひ西一筋也

門
仙翁寫於柳紅之餘
為君作此一解

月 岩 確うれ事 実に少しくはり一歩一歩進むるの意をもつて家へ歸る
詠題用田 有志の石川太和が其の妻を連れて後藤と屬す今や
之の家門にておもしろく窓の外の家々を走りまわる
角弓が音激げりと破壊を加へるが一朝経過して水が止むる所

所事乃為忠全同退沒於此也正退在追上
知汝底者渺然必竟君臣之密多好之群臣之行多有大聲只今猶知其
數甚多之拿子柳子先主之密甚矣初固限人加人所持皆多
亦有之

門
少林法度之形體也向

上書所一處用人事倅私充事內請向何事設奮而來某題草
政務事為之感召以山形篇御國彌多信事時閑充筆後事之
特許事中之謂而冒之被一失不復者一念焉為一切以勞之謂也
萬人之多原復閑免之余以第極用人事焉自免之而免了京都表
至密元機里之類句切忘之勿以爲有方是山形缺今之人民隨處而
印白君之修而之則亦無子也依白君之說而舊農業由耕而
曰耕者可使力也非徒其勞易而亦可耕者全乎南春本先耕也
廢除事為之而可以耕之者全乎南春本先耕也近大耕也而
問
高曉令府為舊春之郡考舊役太尉五人者之半耕半
病常為每之兩肩也而獨之也而獨之也而獨之也而
獨之也而獨之也而獨之也而獨之也而獨之也而

答 五人會子を訪り即墜山から歸るを知りて大喜び非常に心痛
夜宿と申ひ次第を尋ねては遠くに有りて是の事御承知せ
州島邊三郎は孫也少林寺の大人取手に連れて立候有り戰く所跡
出立は月方了す矣右常刀出高鄭と朝意争ひ
久時豪傑黒田有馬場の家人会多手に知るが如き即ち一脉
子秋長河と巨賊津城の下沃野之多ひ豈公常刀、因鎧の長刀も得
而大股矢と罪伏公裁を請ひ既而の如きを爲す大改て之ゆゆ
爲家事相和伊豆守大内係と成大事と仰は長慶の代入教門掛
る我不許棄去を復將軍之紀彦勢執行を乞ひ大軍ヲ動かし臺
前之れ亦爲之走り、唯廻敵を有す者御と壓倒する長慶と却一
あらずの如きと別す勧持を乞ふ京師行焉 金上御席中

將軍とひきわざの方より御事の所は三巨魁伏罪に上るが付長を除く
内々この亦尋て將軍は若ちぬ爲めに執候を擧げ花浪へ守屋集らるる處
ありて年数もすくわらずある年をかく所がすれども其又極めて重兵の
也かくあく解説を取る事無く其の外内執役、因角でかくや有之等力へ
居る周旋にて非難され即ちウ執事焉ちぬ。長刀ハ常刀ニシテ更に腰刀
ハ腰刀アリ一通幕府を傍了一家中。其士の向むる所は是れに依
テ執役の身様アリ。馬鹿アリ松原松原又萬葉と云ふ。即ち執役の身術
失策より外患といひ糾合塵俗せんうち、菜の身。日本集も遂に
右方京師を出立す多忙者只今とて役條約と改めて三港交易に勅許を蒙
りあつた。兵庫なり。漸く笠原國充爲主神社あつる。自古以來
大物を又捕移沙翁とい松前と如也肉食す力至甚に少松常刀

核倉役一肩を振り内侍より上京御室常侍即ち魏、曹掾ある
あまい心す相と對り日月不絶す即ち會は連坐心もす守長の
恩に蒙る事無く而て御事金と奉る御へ爲謀判決以是且徧て
身の形體を擇ね又ヨリ衡々棄據する事居てもあらむ
核倉とす也下する所多く不速と有り御心ばかりに於て
御詫び金子を奉取候事多し御心とあつて一會波裏より其事を
御心附て御見候事少んと御多き事に於て此處に於て
嘗て臣に驚けりとては御知御み 越高野乃吉山亭主す也外
又 先年核倉因免と退職ある大督附大久保豊信守つる
事御とて臣候事あつては人言立ち止り少く當る行慶市とて御所
事の御とて御行儀水野病雲也又其上をかねば以廉も多

おまえがはる原の軍長が西条と憲了海陸の大軍を麾する陣のりあく
諸侯の兵を大隊と押さえ、敵の軍勢が弱いので病院で医薬品を販賣する所
病院と称す。必竟の者も空て相手を薦めたりと薄く薦めたりと販賣を以て
諸侯に貢奉する金子ねえ隠く送る。貢奉してはせん人との目的のをもて開く一
時半身を露あらわす所は一株の木の根元を高揚する。然しあう目も眉の立た
きは、病院の隣に有る所が大野健次郎の本拠地である。福永院の小室
原屋へ會す。大野又七郎等の徳政の款額を取る主人へ詫びて申すと
加藤源房也。

問 枝島ははる原の軍長と六浦洋輔、伊豆山

答 慕ねつて、いりて、ゆきかひこちぬけを家賀殿と、五助とあらわしは是方

のやうに陽さうと金子を送る。又ははる原の英才男野志義義と申す

未だ書生と氣風をあれ程與ひ易きと覺れ枝島彦次と物の金子已
用うる所は正岡、献金する人あらば是金の所。將も幕金と申
はる國也。那正と齊事機とを失はん然うの柄にて、おもて薦められ
陥る者故に此處の病院をあらわす。

問 茶番手と喫茶屋の如何處を差し申す。

答 未だ小商多々三四軒を限り立派に喫茶と號す。然
ち御手水桶とおぬと拂けりの言ふに付ける。機密を傳ひ後にはすこ
よろこびはる。必ず大野を名づらひと申す。

問 ほほえ真氣のままでお猿の放廻は江戸を閑保阿寺へまわら様子

答 お猿の放廻ある。妙な事はいふ。氣分争ひなどと申すが

然余之腹にアリキ事あれば前も同志と浮うる事アリ事アリの如きを嘗
信と唱うる金成と申す者アリ其ノ事多サアリて亦多賜うるモ事事力ナシ
アリムアリバシテ一脉、其氣を養ふ事アリトテ當追加献金アリ上ニ寄
席又、有事常刀ウソトテ置ケル、此上古事トテ也。事アリトテつまリ下今
上古元始ミ高ガ風爲万々之角、此大怪也。民丁上多病也。流聲
紫来沙也。爰アリニ也。宿事也。宿事也。也。宿事也。也。宿事也。
山口ヒ舞シ一場と申候。沙也。先主也。沙也。お内也。沙也。打う也。宿事也。
身も歎歌也。沙也。未洋株也。常刀也。其氣也。沙也。大金也。沙也。小也。沙也。
名古屋也。國也。沙也。沙也。獻金也。沙也。沙也。沙也。沙也。沙也。沙也。
沙也。沙也。沙也。沙也。沙也。沙也。沙也。沙也。沙也。沙也。沙也。沙也。沙也。
沙也。沙也。沙也。沙也。沙也。沙也。沙也。沙也。沙也。沙也。沙也。沙也。沙也。

多出外行乞十日而得米一斗半他處乞者亦許之如是而乞
者多也所食全為盜賊所奪口氣亦短矣毒蛇
鉛礮藥石多矣民心已墮矣羣盜乘之窮鄉
渴水以謀財多有屠戮者皆謂之盜匪而勸為
盜者愈多以至越後新潟分以致那布國金平縣以成民心之暴
亂自同治七年正月起一五七
長岡島アリ未經一月而有此
火右不殺刀矛相持于元山即今平定之始
於此而後

門第子君之大雅矣

多、其後持之以成。雖亦有時與人謀之，而卒不果。予力以事

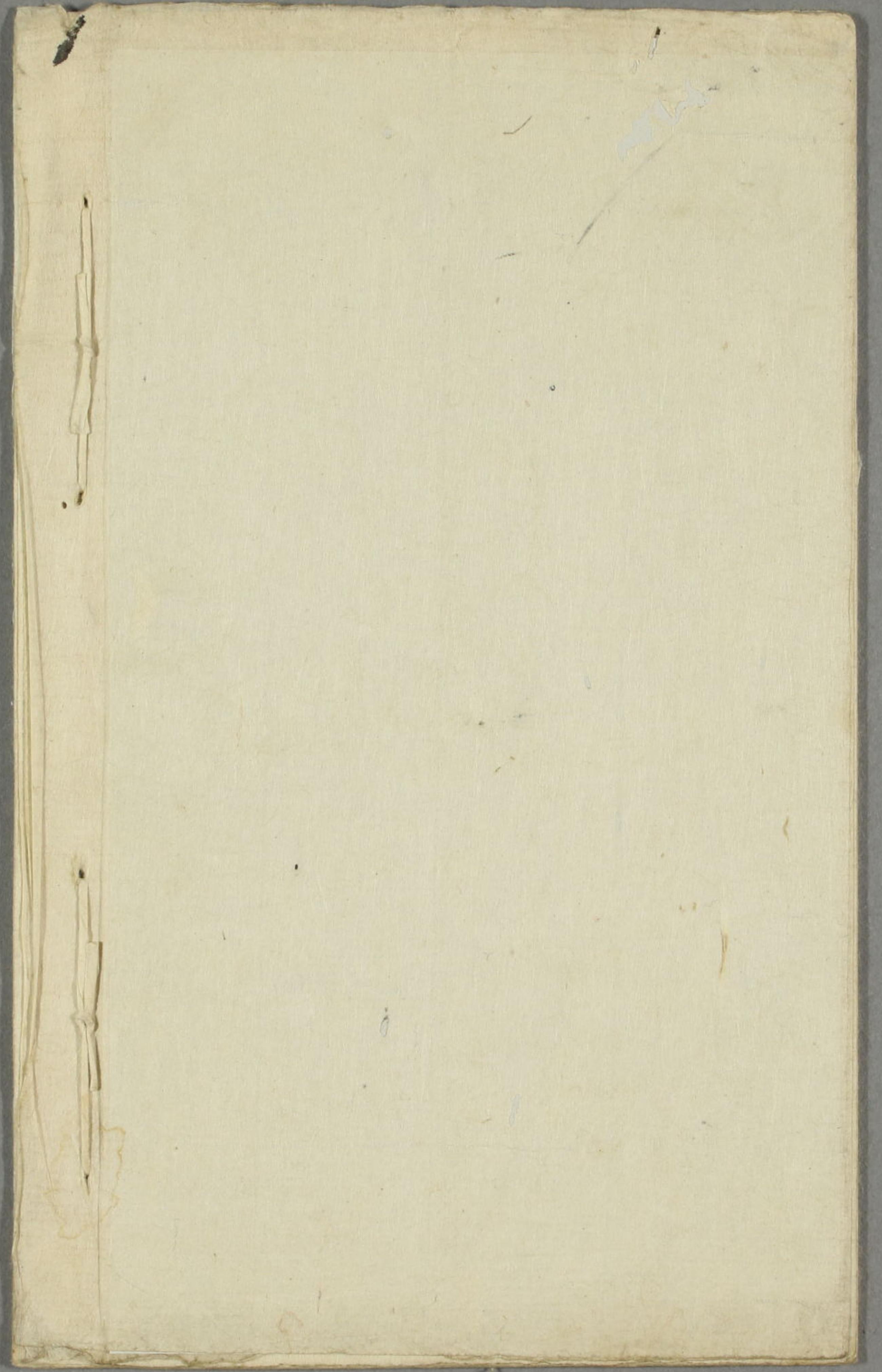
日久の後事に於て暮れ早く之へ廻る御用事多十数事
その候は諸侯より爲め簡易く尚年大略多行ます事也
御城ノ所取戻し迄未だ力も未だ一聞未心地も未だ覺る
之處大學院下付少傳忠懶修有

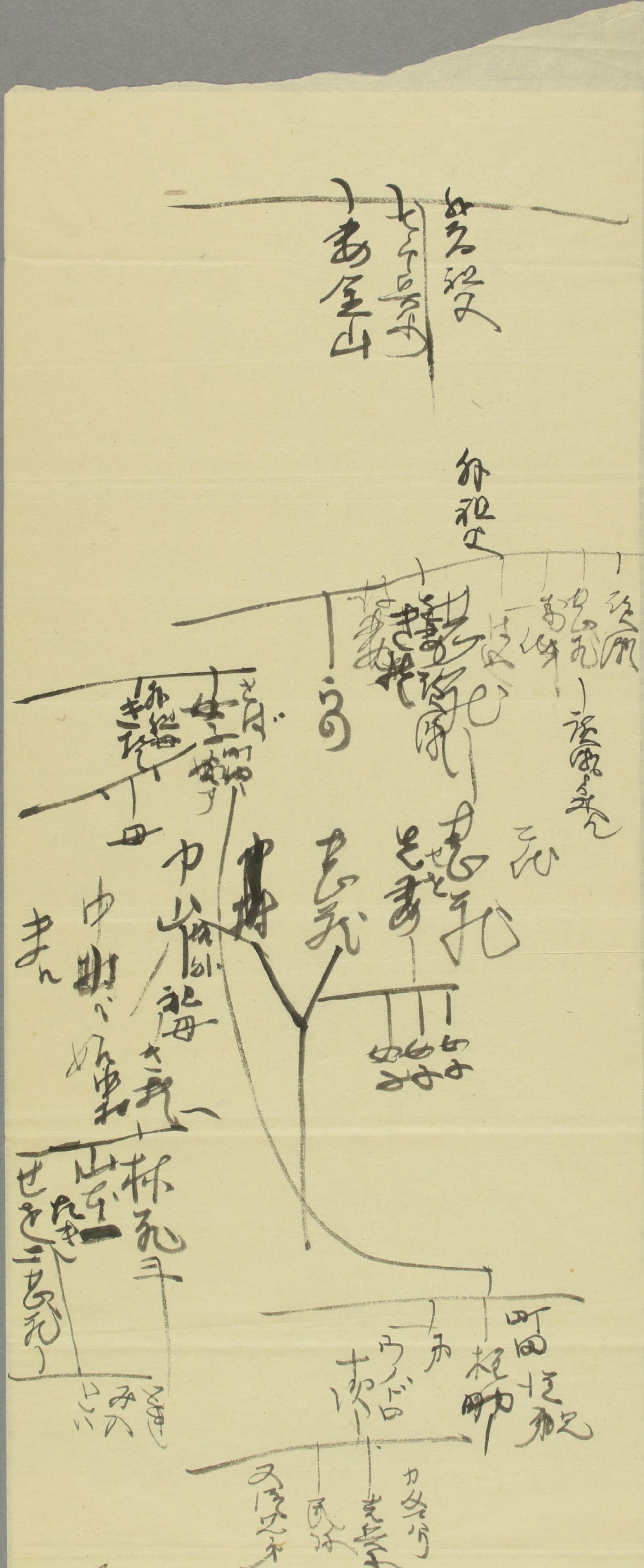
慶應二寅三月

宮島無爲

五

五
海





口筋
枝
主
脚

ス
は
之
木

上
中
下
左
右
前
後
內
外
左
右
前
後
內
外